

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	経済学		
科目基礎情報							
科目番号	0074		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	創造工学科 (一般科目)		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	多田 光宏,村上 明子						
到達目標							
①社会科学としての経済学の基本的な事項を説明できるようになること。②経済に関する様々な論点に対して自分なりに考察を深めること。③消費者・学習者・労働者・市民といった様々な側面から「自己」を見出し、経済活動との関係性を考えることで、現代社会で生きていくための広い視野を養うこと。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)				
歴史的事実や経済学的事項について正確に認識理解し、説明できているかどうかを評価する。また、事実関係や事項が論理的に無理なく説明されているか、論旨が正確で理解されるものかなどを評価する。なお、経済学と関連する科目で理解認識された知識が活用されている場合は高く評価することがある。	経済学的事項を正確に理解し説明できること。自分自身の意見を積極的に展開し、論理的に結論を導き出している。文章表現が適切であることなど。	優のレベルに到達していないが、理解内容が経済学的事項について、概ね説明が出来ている。	左記事項に不正確で明確な文章表現等がなされていない場合。				
学科の到達目標項目との関係							
I 人間性 1 I 人間性 II 実践性 2 II 実践性 III 国際性 3 III 国際性							
教育方法等							
概要	学習目標 I、II、III 本科の点検項目((環境・生産システム工学)教育プログラム学習・教育到達目標A-i、A-ii、E-iii J A B E E 基準1学習・教育到達目標						
授業の進め方・方法	経済学が対象としうる領域は広大です。我々の日常の何気ない行動も社会で起こっているさまざまな出来事も、経済学の考え方を知ればその原理 (の一部) を理解することができます。この講義では経済学について、まずは学問としての歴史を整理します。そして、経済学特有の概念を確認したのち、現代社会における様々な論点を経済学的視点から検討していきます。 なお、考察内容の報告や学習内容の確認として「振り返り自己チェック」を合計10回行います。「振り返り自己チェック」での考察・質問・要望は、次回講義でフィードバックします。「振り返り自己チェック」は評価ツールであると同時に教員とのコミュニケーションツールでもあります。積極的に活用してください。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	ガイダンス, 経済学の基礎 1 : 経済学の可能性	「経済学」という学問体系のイメージを掴む。			
		2週	経済学の基礎 2 : 経済学の誕生	経済学がどのように発展してきたのかを説明出来るようになる。			
		3週	経済学の基礎 3 : 経済学の系譜とその世界	三大経済思想の概要を確認する。			
		4週	学問体系を理解する 1 : 「ミクロ経済学」とは?	ミクロ経済学の特徴と市場メカニズムを確認する。			
		5週	学問体系を理解する 2 : 「マクロ経済学」の論点	マクロ経済学の考え方と基本用語を説明できるようになる。			
		6週	学問体系を理解する 3 : 教育と外部性	「外部経済」について学ぶと同時に応用経済学の意義を実感する。			
		7週	学問体系を理解する 4 : 廃棄物の行方と外部不経済	「外部不経済」について理解し、その具体例と対処法を確認する。			
		8週	中間総括、理解度確認	これまでの学習内容を踏まえながら、政府の役割について理解を深める。			
	4thQ	9週	国際経済を考える 1 : コーヒーの話	国際貿易の基本を理解した上で、現実に行われている貿易の構造的な課題を説明できるようになる。			
		10週	国際経済を考える 2 : 「途上国」と「先進国」	各国の経済状況に格差がある状況がなぜ継続してきたのか、歴史的・構造的に説明できるようになる。			
		11週	国際経済を考える 3 : 国際協力の現在地	国際協力の枠組みがなぜ必要なのか、説明出来るようになる。			
		12週	日本の経済を考える 1 : グローバル化と地域統合	メガFTAにまつわる日本の現状を知り、自分なりに評価出来るようになる。			
		13週	日本の経済を考える 2 : 「働き方」を考える	現代日本の労働慣行を確認し、将来予測をする。			
		14週	日本の経済を考える 3 : 地域振興の可能性	地域格差の現状を確認し、地域活性化の取り組みとして「地域通貨」の事例を学習する。			
		15週	スタディガイド	これまでの論点を総括し、今後の活動に役立つであろう関連情報を確認する。			
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	50	0	0	10	40	0	100
基礎的能力	50	0	0	10	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0